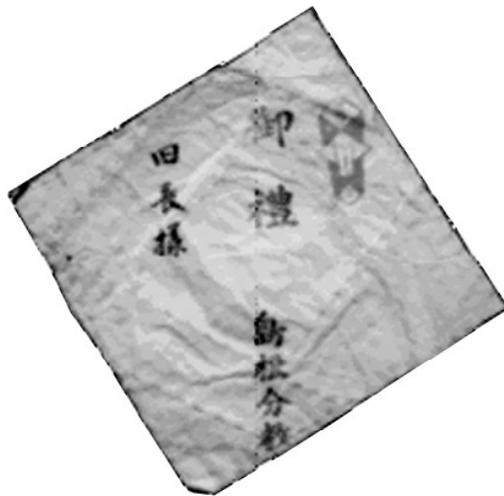


発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



初代様手縫のパッチワークの裏打ち
御礼包の紙を再利用 (摩耶分教会所蔵)

をやの思いをにをいかけ、

^{うちうち}
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

笠岡大教会 別席・伏せ込み団参 -2004.11.28-

別席・伏せ込み団参に、千余名の参加！ 仕上げの年の更なる邁進を誓って、 全員でおつとめ、回廊ひのきしんを

去る十一月二十八日、大教会では、布教部主催の「別席・伏せ込みひのきしん団参」が開催された。当初、秋季大祭の団参のすぐ後という事で、参加者の人数が懸念されたが、笠岡に繋がる全ての教会で、積極的な声掛け、丹精が展開され、千余名の参加者を御守護頂く大盛況の中、無事全てのプログラムが行われた。

二十七日、詰所には大型観光バスが続々と到着し、踏切から詰所までの誘導担当者が走り回る姿が印象的であった。また、バスから降車する人々は、故郷に帰ってきた喜びから、どの顔も笑顔である。大祭でも見た顔、また、久しぶりに見た顔。自然と昔話に花が咲く。おちばならではの光景を嬉しく思う。

二十八日、それぞれが集合場所である、別席場、基礎講座受付場所に向かう。基礎講座では、笠岡大教会の為に臨時の入場口を設置して頂き、大きな混乱もなく受講させて頂いた。ビデオを通して、教祖ご存命のお働きを目の当たりに拝見させて頂き、また、世界で活躍する教友の姿に発奮し、講師陣の素晴らしい講話に感動させて頂いた。参加者からは、「先々の信者さんは、大祭の時だけおちばへ帰る、という意識が多いと思う。そうした中、こうした行事を通して、一回でも多くおちばへ帰るといふ習慣づけをする事は大切な事。有難かった。」と、ある教会長さんが話しておられた

のが印象的であった。

今回こうした大教会挙げての行事を努めさせて頂いたが、声掛けにもかかわらず参加者の少ない教会、逆に、多く帰参して下さった教会など、色々な姿があったと思うが、結果はどうあれ、親の声を大きな器で受け止め、積極的に動いた姿は、必ず先々で御守護の姿となって現れてくる。残すところ一年余りとなった教祖百二十年祭へも、今動かなければ何も残らないし、動けば必ず大きな芽が出てくる事を信じ、残りを精一杯に努めようと、心新たに誓わせて頂いた。

(布教部員 田中隆之)



なにも知らない私

興明分教会 吉岡 真二郎

11月12日(金)、いつになく仕事から早く帰った私は、家の様子を見て唖然としたのでした。「おいおい、誰もおらんじゃあねえか!」。家の電気は消えいつもはあるはずの妻の車もない。せっかく久しぶりに、「家族みんなで夕食を食べられるな。」と、「今日の晩ご飯は何かな?」と楽しみに帰ってきた私の前にあつたものは、真っ暗な人気の無い我が家だったので。

心配になってきた私は、いつも頼ってばかりの隣の教会へ。しかし、そこにも誰も居ない。4人の子どもの声も聞こえない。すると、そこに前会長夫妻が帰ってきました。「うちの家族、どこに行ったんじゃろう?」「あくラーメンの半額券持って、会長の家族と食べに行っとんじゃろう。」との事。結局、一緒に前会長夫妻とそのラーメン店に行く事になりました。その店に着くと、居ました。我が家の家族みんな。会長家族みんな。結局何も知らない私は、そこでご飯にありつけ



たのでした。

注目を済ませ待っている間、久しぶりの事だったので、前会長夫妻と親子の会話を楽しんでいました。すると、前会長が、「真二郎28日は空いとるかのお?」「うん、今はちょっと分からんなあ。」中学校の教員をしている私は、休みという休みは、基本的に部活動の指導に明け暮れていました。しかし、県大会がすんだ頃でもあり、ちょっとゆっ



くりしたいと言う気持ちもありました。その私の気持ちを見透かしたように、前会長は、「まあ久しぶりに天理に参拝せえ。」と言。その一言から、今回のひのきしん団参への参加が決まったのでした。

当日28日の朝。笠岡詰所に居る私。実はこの後どこで何をすべきなのかを知らない。知らないづくめで、会長の車に乗り、別席場の隣のおやさとかたへ。そこで、「天理教基礎講座」を聞かせていただきました。今まで、何度も聞いてはいましたし、何度

としては、自分自身の有り様を考えさせられる時間でした。

最後に、岡山に帰る私の車には、教会の長女と次女が私の家族と同乗していました。これも、実は知りませんでした。もっと、教会に参拝しなければと思った、今回のおおぼがえりでした。

も活字として目の前を通り過ぎていた「陽気ぐらし」と言う言葉の意味を、改めて自分に矢印を向けて考えさせられる時間をいただく事ができました。仕事柄、人間と人間の繋がりを大切にしているつもりではありましたが、やはり、まだまだ足りない所があるなど、痛感した所です。その後の、神殿でのお勤め、回廊ひのきしんも、おおぼになかなか足の向いていなかった私に



別席伏せ込みひのきしん団参に

参加して

皆部分教会 常井 二三代

私は先日、教会の月次祭終了後、信者様の前で感話をさせていただきました。なかなか成人にも足らずで小さな人間ですが会長様より声をかけていただいた時には素直に、すぐに返事をする事ができました。しかし返事はしたものの何を皆さんの前で話したらよいものかと悩んでいた時、ふっと子供の見ていたテレビのクイズ番組に目が止まりました。正しいマナー

を当てるというもので、初詣の時ですがあなただっただろうしますか、神社の前に立ち拍手と礼をします。その後にお願いをしたいと思いますよね。私もそうすると思います。今年も家内安全で健康にすごせますように」とか「今年こそよいことがたくさんありますように」など、でもこれって間違いなのだそうです。正しいマナーは二拍二礼をしお願いをするのではなく



自分自身の今年一年の決意を申し上げることが正解でした。正しいマナーを教えて下さっていた先生言わく「百円、二百円の賽銭で何千人、何万人のお願いばかり神様も聞いてられませんかよ。」なんて、おもしろおかしく話していました。今まで私もお道のいろいろな話を聞かせていたのにと私も反省させられた一場面でした。

私もこの大切な時々に、主人の

出直しという大きな節を見せて

いただきました。約5年間の道中にはいろいろないばらのような道で苦しいと思うことが多く神様の前で「どうか救けて下さい。」と自分のお願いばかりをしてきた様な気がします。今思えば、主人に苦しい身上を見せてまで私を成人させてくださったのだと、親神様、教祖の親心と主人に感謝の思いでいっぱいです。この後を立派にとはいかないかもしれませんが、日々、神



でいる自分ですが。

先日の伏せ込みひのきしん団参にも3人の子供たちと電車を乗り継ぎ帰参し勇んで参加させていただくことができました。大勢の方々の一つに合わせて唱和したおつとめと大教会長様のあたたかいお言葉に懐住まいの親神様・教祖の力強さとやさしさを感ずることができました。

大教会長様の秋季大祭のお話に「人をたすけたい、たすかってもらいたいという思いを持ち続けて生活することが大事で、又親の思いを少しでも伝えたいと思いつけることの積み重ねていくこと。結果でなく、させていただけのよろこびを持ち続けることが大切」とのことでした。これなら私も第一歩としてさせていただけそうです。

様の親心にもたれて、喜んでいただける様、通らせていただこうと思っております。三人の娘という宝物を授けていただいていますから、この子供たちにお道のすばらしさを伝えることが私の大きな務めだと思っております。その為にも自分がさせていただけることを無理せず喜んでさせていただきます。と思っております。とは言うものの気持ちがあせるばかりで何もできない

秋のおぢば

福芦分教会 佐藤 昌子

11月27日夜11時すぎ、私たち福芦分教会の一行は本部に到着しました。『別席伏せ込み団参』のため、私は3ヶ月ぶりにおぢばへ帰らせていただくことになったのですが、おぢばもすっかり寒くなっていました。車から降りると一瞬にして息が白くなり、私は薄着をしていたため、冷たい風が服の間から通り抜けていきます。でも、おぢばへ帰らせていただいたことの嬉しさで、それさえもすがすがしく感じられていました。私はちょうど半年前のこの日、修養料を終了したのです。たくさんの人たちと出会い、数えきれないほどの思い出がたまっているおぢば。今回もおぢばへ帰れると決まった日から心待ちにしていました。おぢばへ到着したのは夜でしたが、黒門からの石畳やほのかな光の神殿、この夜の雰囲気もとても好きです。その日は本部を参拝して詰所へ帰りました。

翌日の28日、私の従姉妹と友達如初席、別席を受けることになっていたので、私は会長様・奥様と一緒に従姉妹たちに付き添って別席場へ行ききました。この日は他の大教会の団体も多く、別席場へ着くとすでに列ができています。私は従姉妹たちを見送って別席が終わるまでの間、一

人でおぢばを歩くことにしました。この日のおぢばは快晴で、澄んだ空がどこまでも広がり、太陽の日ざしが暖かく、本当に気持ちの良い日でした。のんびりと歩いていると、なつかしい修養料での日々が次々と甦ってきます。春には満開の花々や緑でいっぱいでしたが、今はすっかり秋となり、木々の紅葉がとてもきれいで、私が見慣れていたのとはまた違ったおぢばを見ることができました。

私たちにとっておぢばとは元の親里です。今この瞬間にもお道は世界中に広がっています。中にはおぢばに帰りたくてもすぐには帰ることのできない方々もたくさんおられると思います。でも私はこうしておぢばへ帰ることができ、本当に恵まれた環境だと今回感じることができました。

私は本当におぢばが大好きです。



婦人会 委員長後継者講習会

好天気に恵まれて十一月二十三日委員長後継者講習会が開催されました。今回は二十三日のみとなりました。

九時に集合、会場準備、九時三十分より受付をさせて頂きました。遠近問わず受講者十九名、託児十九名、ひのきしん十九名でした。

次いで支部長様が教祖百二十年祭を迎える迄の経緯を過去の教祖年祭をひもとき乍ら節々にあたるの事柄、時代の運び内容を細かく説明下さり年祭を迎える旬の大切さなどを話されました。其の後、琴・三味線・胡弓・調弦と四力所で練習致しました。

午後からはテーマを決めて練り合いを重ね、発表を行って、支部長様より、大切な時旬、全て成ってくる事を喜んで通らせて頂きましょうと親心をかけて頂いて終了致しました。十九名の幼児園生達も委員長部長の暖かい真心に抱かれてけがもなく楽しく過していました。共々に勇まし合い、励まし合って旬の御用につとめさせて頂きたいと思えます。

(婦人会常任委員 内海安子)

おやさとふしん 青年会ひのきしん隊

おやさとふしん青年会ひのきしん隊は今年、結成五十年を迎え、各分会とも大勢の方々が入隊されました。毎年、各直属分会には教会十名称につき一人の入隊が割り当てられています。つまり、笠岡分会は百三十八ヶ所だから十三名以上の入隊を要請されているのですが、今年は結成五十周年の旬に呼応して、各分会、軒並み二、三割増しの入隊者数であったようです。宿泊所である第百母屋も、例年に増して活気に溢れ、互いに切磋琢磨する雰囲気にも包まれていました。

朝、起床とともに百母屋内の清掃、屋外に整列、点呼、行進にて本部朝づとめ参拝、第一食堂にて朝食後、百母屋に戻り出動準備、屋外にて整列、点呼、現場へ出動。午前のひのきしんが終わると第一食堂前に整列、全員揃い次第昼食、食後班別に揃い次第行進にて帰隊。午後からも屋外に整列、点呼、現場へ出動、と夜の点呼まで延々と規律正し過ぎる日課がこなされてゆきます。勿論、衣服の乱れも許されません。はっぴの帯、隊服のボタン、ヘルメットのおごひもに渡るまで逐一指示があるのです。もっとも、入隊者の七割程度が入隊

経験のある方なので、初めての方もいやおうなくその流れに沿わざるを得ません。かくしてひのきしん隊の規律、秩序は守られています。

長々とひのきしん隊の日課を述べたのですが、我が笠岡分会はここ近年にない少人数で結成五十周年のこの年に臨みました。たったの八名でした。今年の青年会総会で青年会長様であられる真柱様は、会員に対して別席者増加の取り組みと、ひのきしん隊の入隊を促されました。青年会員の常時の修練道場であるひのきしん隊に入隊して切磋琢磨し、これからのお道に有用な人材に育ててもらいたいとの思いであろうかと思われます。今回、百母屋では西宮分会と同部屋になり、夜遅くまでいろいろと信仰談議に花を咲かせたのですが、その中で、西宮部内の五十三歳の教会長さんの言葉が忘れられません。

「私はこのひのきしん隊はおたすけの現場だと思ってるんですよ。今年は十代の若い子二人を連れてくる心定めをしていたんですが残念ながら駄目でした。ひとを連れてくればこの器の中で彼らも鍛えられるし、世話取りする自分も成人できる。」と。

真にひのきしん隊の有意義さを言い得ている言葉でした。私自身はこのひのきしん隊をもって委員長長の任を解かれたわけですが、来年も、そして再来年も入隊して成人の糧にしていきたいと思っ

ております。来年の入隊月は七月、記念すべき七
百回隊です。

(青年会前委員長 佐藤 真孝)



青年会一ヶ月ひのきしん隊に

参加して

西伯分教会 金平 貴之

僕がこの度ひのきしん隊に参加させて貰ったのは仕事もしないで家でブラブラしているのを教会の人に見られて、「仕事が無くて、やる事が無ければ行こうや」と誘われたからです。大体僕は、去年の夏、修養科に入るまで、天理教のことなんか全く知らなかったんです。半強制的に修養科に入れられたので修養科や天理教の印象は、毎日とても辛くて、最初の日から、最後の日まで「早く地元に戻りて〜」とばかり思っていました。そんな調子ですから僕の頭の中では、天理と言う所は、あまり良いイメージはありませんでした。だから今回、地元の教会の人が誘って下さった時も、半分は興味が有りましたが、残りの半分は「嫌だ」

行きたくねー」と思っていました。(結局は参加するはめになっちゃった訳ですが)色々考えた結果「ひのきしん隊が始まる迄に、やることに決まっていなければ行こうかな」と思うようになりました。自分でもやるのが無いのが辛かったんだと思います。まあそんな感じで、何となく参加させてもらった、ひのきしん隊なんですが、家ではやる事が無くて、もてあましていた時間も、天理では、はじめからやる事が、決められていたの、天理での生活は、地元(家)での生活とは、正反対でした。ゆっくり出来る時間が欲しかったです。また団体生活と言うこともあり(僕達の班は21名でしたが24日間1つの部屋で生活しました。)やる事はなるべくみんなに合わせようと心掛けました。(なんせ普段の生活と違うわけですから、)もし、この文を読んで下さっている人で「自分は、今のままでは駄目だ、何かを変えないといけない」とか、「あの人が変わってもらいたい」とか考えておられる方がいたら、是非、天理行き(ひのきしん隊参加)をお勧めします。何かを変えたいと思っ

ている方には、びったりだと思えます。僕がそうだったように、正反対ですもの：でも家に帰ってから、ひのきしん隊に参加する前と変わらぬ気持ちで生活していても、神様の御守護が有ったとは言えなくなるので注意せねばなりませんけどね。

◆年頭会議

【日時】平成17年1月20日午後2時
【場所】笠岡大教会

◆献血ひのきしん

【日時】平成17年1月21日 大教会春季大祭終了後

《日本赤十字社より「本人確認」へのご協力お願い》

日本赤十字社では、患者さんが安心して輸血を受けられるよう、高感度検査法の導入や、問診強化等を図り、ウイルス等の感染を防いでまいりました。

しかし、最先端の検査法によっても血液中の微量のウイルスは検出できないことがあるため、まれに患者さんに輸血を介して感染するリスクがあります。

一部の献血者において、氏名等を偽って献血される方や、ご自身が感染症に感染しているかを確認するため、献血される方がいらっしゃいます。輸血用血液の安全性をさらに向上させるため、本人であることを示すこと(本人確認)によって「自ら提供する血液は安全である」という意識をもって献血されるようお願いしております。

献血受付の際に、ご自身を証明できるものの提示にご理解ご協力をお願いします。

《ご提示頂く物の例》

運転免許証、健康保険証、パスポート等。

実修会
便り



御用はありがたい

錦備分教会 室 悦子

「御用はありがたいで、自分の欠点に気付かせてもらうことが出来るからなあ。」

10年ほど前、ひのきしんに参加させてもらった時に隣り合わせたおばあさんが連れの若い人に話していた言葉です。そのおばあさんの心からありがたいなあという気持ちが私の心に伝わって心に残る一言となりました。

11月6日午後3時頃の事です。主人から昨年度の私の源泉徴収票を捜しておいてほしいとの電話が入ったのです。普段の私なら主人が帰って来るまでに捜しておけばいいやと思うのですが、明日はにをいがけおたすけ実修会で福年分教会に出向させてもらう事となっていたので、今日の家庭の治まり具合が実修会に反映する様な気がして、主人に安心してもらえる様にしなければと思い早速捜して、メールで徴収票があったことを報告したのです。

良かったこれで主人も安心しただろうとホッとした矢先。今度は会社にそれをFAXしてほしいと電話があったのです。咄嗟に「そんな無理やわ、ペラペラの紙やし小さいから機械に挟まってしまいわ。」「そうかそしたら明日にするわ。」その場はそれで治まったのですが、しばらくして、ハッしまったと思ったのです。FAXすることが出来るかどうか実際ためしてもみないで無理だと言ってしまった事。無理ならコピー二へ行ってコピーしてそれをFAXすれば全て丸く治める事が出来たのに：私は頭が堅いなあ、明日は相手に合せる事を心にとめて勤めさせてもらわなければ：と思っていたのです。

しかし、練り合いの時、「申し訳ないけれども今後の為に言わしてもらいますが、耳の遠い者にも聞こえる様に配慮して、もう少し大きな声で話をしてほしかったです。」と意見してもらった時、ほんまや!! 私は緊張して、とにかく話をすることいっぱい、いっぱい肝心な話を聞いてもらっている人の事が全然見えてなかったわあ…。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「長」、撰六十一句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事撰ばれ掲載されています。なので転載させて頂きます。おめでとございませう。

準秀詠 芳阪布教所長夫人 杉原優子

月次祭 長い回廊人の波

秀詠 東悠分教会長夫人 田林美智子

感涙や 思い出あまた 長き道

▼病喜録のうた 東濱 十三雄

我足でトイレ使える 有難さ

まだく重い人も有るのに

臥せしまま十二下りに力入る

悩める人の姿浮かんで(乳癌の人)

かしこみて真夜の願いづとめ終え

もったいなさに心しびれる(受験生の母)

これでは「とく(徳)」を積ましてもらおうどころか「どく(毒)」を積んでしまった事になる申し訳なかつたなあと素直に反省する事ができたのです。帰る道すがら、昨日の事と今日の事を考え合わせながら、本当に私は人の顔色を見ることが出来ない人間だなあ：それにどういう物の言い方をすれば相手の気持ちと和むか全く考える事が出来ない人間だなあと気付かせてもらいました。「御用

はありがたいで、自分の欠点に気付かせてもらうことが出来るからなあ。」あの時のおばあさんの一言が鮮かに甦った一瞬でもありました。親の思いになかなか添うことの出来ない私ですが、これからも御用を通して一歩一歩前進して行きたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございます。

▼続道中詩 油木分教会 黒瀬修 式

用木のつとめ生涯続く道
定年もなしリストラもなし

むづかしく思う心は我心

足りぬ力は神の自由用

老いるともいつも笑顔でにおいがけ

今日を喜び明日を楽しみ

老いるとて甘え心は許されず

勝利輝く光見るまで

▼伏せ込み笠岡 詩(かくしん)

一、笠岡の備佐の畳

本部神殿敷きつめて

名高き笠岡備佐のたたみ

二、笠岡の初代の道を

したいはこぶ団参は

別席伏せこみひのきしん

二〇〇四年のつとめよここに

モスクワ サンクトペテルブルグ 演奏会に参加して①



善久岡本教会大

断した次第です。
 牧分教会長、曾山氏の喜びの言葉を聞いて、判

先ず、曾山氏の長年の努力に敬意を顕して、話を進めさせて頂きます。彼は、天理大学(英米学科)に在学中は、"S.A.T.O.M."(海外伝道を志す学生が集まり)に属して、夢を温めつゝ、卒業し、その後、本部で翻訳のひのきしんに従事し、英語圏への布教を目指すも、金沢の自教会に帰ってから、日本海を隔てた、ロシア語を度々耳にしては、自分の使命を、"ロシア"と定め、ロシア語を始め、年重ねて、充分に行き出来るようになり、ロシアに通いつゝ、現地の教育関係、芸術関係、警察関係の人々と人間関係を作り、日露友好協会の人々とも会員として深い関係を持ち、天理教、天理大学との橋渡も担って以来十年、今では、ロシア刑務所の戒師として、年数度の受刑者への教話をさ

ロシア演奏会が、初期の目的(ロシア布教、天理教の布教公認を得る為の活動の一環の一つとして)、目的を成して帰ることが出来ましたのは、団体解散時の陸

れ、大学の講師をも務められる。その関係で、今度もロシア最大の刑務所で、演奏会を行いました。彼は一日も早く、天理教の布教公認を得ようと努力している教内唯一の用木であります。組織の上での、援助もなく、時に冷たい視線にもさらされる時もある中、孤立無援、成果なき遅々とした歩みの年月、使命感だけであゝも情熱を傾けられるであろうか。多くの人が、成長の過程ではぐくんだ夢を、失ったり、異なったものへ、変化させたり転化させたりして歩む中、英語圏布教から、ロシア布教へと移し、教会長職任命以降も、変ることなく学び、あのオーム真理教の一件以降も、多大の困難に直面し、又内に在っても多くの障害をクリアーしながら、勇んで歩むその歩みは、明治末期の遠隔地布教を志した、先人の歩みにも似ている。まさに不毛の大地を耕す開拓者に重なる。現代社会、現代の道の中にも成果を急ぐ余り、過程を軽んじると感じる言動を耳に、眼に、することが度々ある。信仰者の歩みは、神が、歴史が評価すべきものである。彼のような人が居ていいのではないのか、いや居てもらわなければならぬ。全ての歩みは、"伏せ込み"ととらえなければならぬ。



私は、六十才を前にする彼に、あらきとよりよの真骨頂を感じ、彼の頼みを、ぜひ実現したいと友人に相談、昨年末より準備し、大教会長様を始め大勢の人々の応援を得て、盛大な意義ある演奏会を無事終えることが出来たと思っています。
 演奏会と云えば、雅楽の舞台の道具、舞(蘭陵王名曾利)の衣装二組、楽人の衣装、楽器、合わせて十六点、重さ百五十kg、飛行機に乗せることの出来る一人の持込重量二十kg、全員で二十二名で持つと一人の団体荷物7kg持たなくてはならぬ。一人の持込荷物十三kgと云うことになり、冬衣装の着替え数点カバンにつめ大教会の風呂場ハカリで計量すると十一kg、楽人の楽服を計ると二kgで、他の何も入れることが出来ない。又現地の情報より、チェチェンのテロ事件以降、空港の荷物のチェックが厳しいとのことで、一人重量十三kgを厳守することを全員に到達、十月二十七日、成田空港に二十二名集合喜々とした面々は、私が最年長、楽人は二十代三十代の若者で、天理大学雅楽部卒業のメンバーを中心に、東京芸術大で雅楽専攻の若者も居て、技術的に高い技量を保つことが出来た。(私は別として)
 《次号に続く》

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます
親神様の「陽気ゆさんが見たい」との親心溢れる御守護のままに日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております
特に今は暦の上での冬を感じさせないように紅葉から落葉へと日一日と姿を変え季節の移ろいを見事に演出して下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます
しかしながら目先の楽しみに心奪われ親神様の懐に抱かれる大いなる喜びを忘れるどころか季節の移り変わりさえも疎んじる勝手気ままな心遣いの人が増えております事は誠に痛ましく残念でなりません

お道にお引き寄せ頂いた私共は日々喜びを味わわせて頂くと共に朝夕に御礼申し上げご恩報じを念じつつ一人でも多くの人に真の喜びを知って貰うべくにをいがけおたすけを通してたすけ一条の上に勤め励まさせて頂いております
その中にも今日の吉日はこの笠岡にお許し下された十一月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます
御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が親を慕い相共にお歌を唱和して改めて御礼申し上げます
状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年祭活動の二年目としての今年もあと一ト月余りとなりました 教祖年祭は成人の旬とお聞かせ頂いておりますが只単に道の子の成人だけでなく全ての子供の成人の旬でもあります 世の中の姿を見ますと「強きをくじき弱きを助ける」姿から「強きに屈し弱きをくじく」姿へと大きく変貌します 人々の心が荒んできているように見えます
こういう時だからこそ全教が「丸」となってたすけ一条に邁進する年祭の意義があると思わせて頂きます
今この旬だからこそ今日までの歩みを素直に反省したすけの理の流れを正すべく親への伏せ込みと子への丹精そして子となるべき人々への種蒔きにと勤め切らせて頂く覚悟でございます
又その手だてとしての別席伏せ込みひのきしん団参を来る十一月二十八日にさせて頂く所存でございます

何卒親神様には届かぬながらも精一杯たすけ一条の御用の上に邁進する皆の誠真実の心をお受取り下さいまして万たすけの上に世界一列救けたいとの自由の親心をお現わし下さり人々の心に親心をお映し下さいまして一列子供が救け合い睦び合う陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

立教168年(平成17年/2005年) 笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	全体行事	ひのきしん	布 教 部	海 外 部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	21 献血ひのきしん 25~27 春季大祭詰所受入		
2	2~15 部内巡教	16~29 本部食堂(直1ブロック)	26・27 教会長講習会 28・1 修養科修了講習会	
3	2~15 部内巡教		20 にをいがけ・おたすけ実修会委員研修会	
4		17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	4月 にをいがけ・おたすけ実修会 ~6月 (全教会で実施) 29 全教一斉ひのきしんデー	
5	4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂(直2ブロック)	28・29 修養科修了講習会	
6		1~25 直属ひのきしん特別隊		
7		1~25 直属ひのきしん特別隊 16~31 本部食堂(福山ブロック)		
8	26~4 こどもおぢばがえり	25~4 こどもおぢばがえり 詰所受入 6~20 直属ひのきしん特別隊	21 修養科修了者の集い 28 にをいがけ・おたすけ実修会委員研修会 28・29 修養科修了講習会	22~24 英語講習会
9			1~30 布教推進強調月間 9月 にをいがけ・おたすけ実修会 ~11月 (全教会で実施) 28~30 全教一斉にをいがけデー	
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1~15 本部食堂(高屋ブロック) 25~27 秋季大祭詰所受入		
11			28・29 修養科修了講習会	
12	20 心定め提出 22 年末大掃除	27 詰所餅搗		
備考	◎常話会議 毎月29日 午前10:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後2:00	註: ブロックの区分けは 直1: 鶴山~明石市 直2: 久松、東城~錦備 上府: 上下、府中市	◎おかえり講話 1月25日、4月17日 4月18日、10月25日 いずれも午後7:00	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふばく月報

◎役員並びに直轄教会長会議: 毎月29日午後2:00、2月は末日、4月は午後3:00、7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

部会 月	婦 人 会	青 年 会	少 年 会	学 生 会 学生担当委員会	輸 送 部
1	23 全委員部長講習会				25~27 春季大祭参拝
2				21 学生層育成者講習会	
3				28 春の学生おぢばがえり (直属アワー)	
4	19 婦人会本部総会		31~2 鼓笛/バンド講習会 2 おつとめまなび総会	24 新入生歓迎会(おぢば)	17~20 教祖ご誕生祭参拝
5		22 笠岡分会青年会総会			
6	3 ひまわり会 集い 25~26 こかん様に続く会	5 別席・伏込ひのきしん団参	21 縦の伝道講習会 (育成講習会)		
7		1~24 1ヶ月ひのきしん隊			
8		28 新入会員研修会 28~4 全分会布教推進週間	22~24 野外錬成会(キャンプ)		26~4 こどもおぢばがえり 団体列車1本
9	9月 婦人会本部女子青年大会 ~11月 (各地域)				
10	2 婦人会本部女子青年大会 30 (広島教区) 〃(岡山・島根・鳥取教区)	27 本部青年会総会			25~27 秋季大祭参拝
11	22・23 委員部長後継者講習会				
12					雅 楽 部
備考	◎支部例会(毎月5日午前10時) ◎直轄委員部長連絡会(毎月次祭後) ◎女子青年会(毎月第4日曜日) ◎ひまわり会(毎月3日)	◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~	◎教会おとまり会の実施		◎練習: 毎月次祭前日 の動後刻 ◎舞楽練習: 毎月次祭日 刻



実践項目集計 (10月)

百万軒にをいがけ	61,611軒
おさづけのお取次	4,267回
身上事情お願い	857件
提出教会	118ヶ所

大教会だより

◎おやさとしん

稲陽	海松ヶ岡	芳井	芳井	久松	至	自	青年会ひのきしん隊
倉實	岡高	井本	井佐	松中	立教167年11月24日	立教167年11月1日	
松佐	藤原	田名	田藤	村剛			
田佑	真理志	晴三	真孝	史			
太	清						

◎第七六一期修養科

西伯	本多正悟
西伯	金平貴之

*教養掛

三ヶ月間 谷内伸自

(輝美濃分教会長)

一ヶ月目 今川昌彦

(大教会役員)

二ヶ月目 高島寛

(海潮川分教会長)

三ヶ月目 宮本泰徳

(廣町分教会長)

*修了生

福節 桑山誠

瑞雲 豊田俊美

弓ヶ濱 松田納彦

海松ヶ岡 森本ひな

福節 桑山郁恵

稲瀬 岩田典子

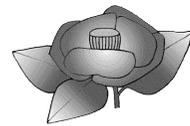
◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教167年12月14日終講
海松ヶ岡 森本ひな

計報

村川ハツ子姉

大江橋分教会三代会長
十一月二十日
出直されました。
享年 九十七才



秋季大祭で真柱様は、年祭活動の仕上げとも言うべき一年を、これまでの歩み方を振り返り、目標を見据え直して、踏み出す態勢を整えていただきたいとお諭し下さった。私の場合、教務という自分の囲の中でしか動いておらず、行事としてのにをいがけ実動だけで積極的の外に出ていない事に気付いた。むしろ、生活の為に忙しく働いてくれている女房殿の方が真剣に通ってくれている。

二男の友人N君の母親が足を骨折して入院しているのでおたすけに行ってくると言った折、私は「G宗教の熱心な信者のに」とつい口を突いて出た。「それがどうしたん。」と言って、二男とN君と車で病院に行ってしまった。N君はリハビリ中の母親に早う「これ、してもらい」と付いて回った。N君はお泊り会で腹痛だった時、おさづけで良くなった体験があったから、病院から帰った女房に聞くと「おさづけ取次だよ。」とアツケラカン。

N君の母親が再婚した父との間に2才の妹が居て仕事を休んで見ている。女房はN君の家の事情を思う時、宗教の違いや、まして断られる心配など微塵もなく、いてもたってもいられない、たすけの行動であった。「人を救ける心は真の誠一つの理で、救ける理が救かる」との真の意味を心の底より学び感じ入った。女房を見据え直し惚れなおした。仕上げとも言うべき一年は、夫婦は五分五分。
さあ、私の番だ——。(え)